

■実施方針

# 中津川の新たなシンボルとなり、「まち」を元気にする市民交流プラザをつくります



図 1-1 中津川の魅力と賑わいを発信する「市民交流プラザ」のイメージ

●設計業務の実施方針

## 対話を重視し、みなさまと共につくる中津川の交流とにぎわい拠点

市の総合計画などの上位計画や中心市街地での立地特性、リニア開業を見据えた上で、まちの歴史や伝統、市民活動等、市民交流プラザを取り巻く様々な特性や環境を多角的な視点で捉え、ひと・まち・未来を元気にする拠点施設をつくりたい。そのために、豊富な経験・技術力・組織力を結集して、円滑な合意形成を徹底しながら「コミュニケーション」を最重視して業務を遂行します。また、SDGs に向けた取り組みも実施方針に取り込みます。

### ●円滑で手戻りのない「対話によるプロセス」を重視した共につくる合意形成

- 市担当部課及び市民や議会を含めたすべての皆様とのコミュニケーションを重視し、「一緒に考え、一緒に作る」協働の姿勢を大切にします。
- ユーザーである市民の意見を積極的に取り入れるとともに観光客などの利用者からの多様なニーズにも柔軟に対応します。

### ●事業費と事業期間を見据えた「コストとスケジュールマネジメント」

- 検討課題を早期に抽出するフロントローディング手法で、検討に要するフィードバック時間を確保するとともに、スピーディな課題解決を図ります。
- 設計初期段階コストに大きく影響する既存杭活用や躯体、外装などの項目を重点的に、タイムリーなコストレビューを行うことで、コストマネジメントを行います。

●実施する上での配慮事項

### ●的確な条件整理と設計内容の「見える化」でわかりやすい資料を提示

- 打合せや各種説明会は、複数案の比較資料、模型やCG等、わかりやすい説明資料にして説明し、検討内容の確実な伝達で手戻りをなくします。
- 3Dモデルを活用した、建物内の風や照明環境のシミュレーション、空間の見え方を検証するBIMを利用し、設計意図が伝わりやすい資料とします。

### ●誰もが快適で、心地よく時間を過ごせるユニバーサルデザイン

- 利用者にやさしいことは勿論、特に子育て世代の女性目線、幼児児童の目線をしっかりと把握した安全・安心・使いやすい施設づくりに配慮します。

### ●地域環境を考え、ゼロ・エネルギー施設を目指す

- 開口部の制限や高断熱化などを行う過程で当社のZEBの取り組み経験を活かし、本施設でもZEB化の可能性を検討し、補助金の獲得もめざします。

### ●想定外まで想定する災害対応施設

- 施設の各スペースの災害時の機能転換や災害拠点とする検討を、多数の災害対応施設の計画経験から取り入れ、利用者の安全と安心を確保します。

■実施手順

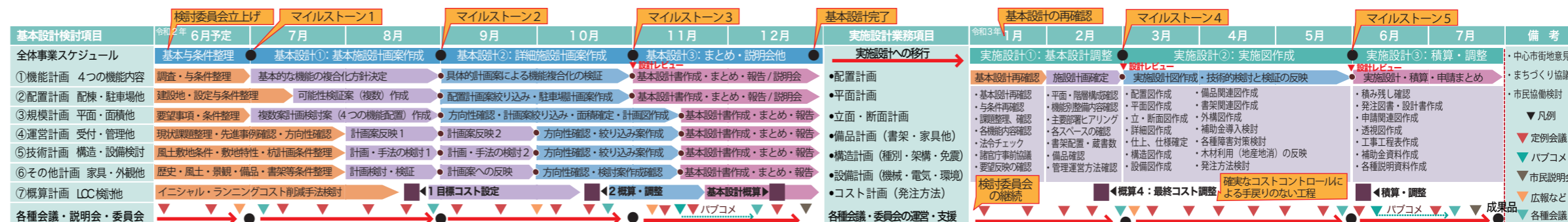
## 整備実施計画を踏まえ、手戻りなく、関係者の要望を確実に実現する業務フロー

●設計業務を実施する手順

### ●具現化に向けた課題をわかりやすく解決し、次工程へ確実に進む手順

- 4つの機能の構成と管理運営形態の調整等、検討委員会の立上げを提案し、検討課題をテーマ毎にステップアップすることで、様々な調整項目を一元的に整理、解決して計画に反映させます。
- 国の事業活用のための整備スケジュールを厳守し、基本・実施設計中にもマイルストーンを決め、計画の進捗と問題点を確認し、提案・チェック・修正・確認を行う関係者の検討時間を適切に確保した上で、次工程に進む業務フローとします。

●想定する作業スケジュール



●業務を実施する上での着眼点

### ●市民活動の拠点施設としての「3つの視点」

市民交流プラザには、中心市街地に賑わいと優れた景観をもたらし、世代や地域を超えて、様々な人々の学びや交流が活発に起こることが求められています。私達は市民の生活や情報・文化・まちの景観を「つなぐ」新たな元気創出の核を、「3つの視点」の思想を軸に、市民活動の拠点づくりをめざします。

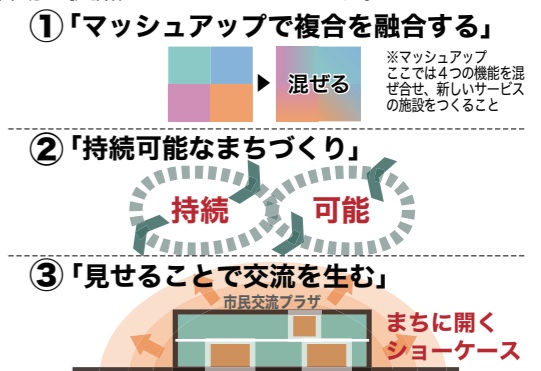


図 1-4 業務実施に向けた着眼点

●業務体制

## 経験や知識、アイデアを活かし、的確にプロジェクトをリードする設計体制

●組織する体制の特徴

### ●豊富な複合施設の経験や設計実績を市民交流プラザに活かす設計チーム

- 組織設計事務所の最先端の技術力・ノウハウ、先進情報の集約等、全国ネットワークを發揮できる万全の体制で業務に取り組みます。
- 図書館、公民館、子育て施設をはじめとした様々な公共施設を手掛けた実績と経験を持つ管理技術者・各主任技術者により、中津川ならではの風土やこれからの変化を見据えた施設の在り方に配慮した最適な技術提案を行います。
- 使い勝手の異なる施設毎の打合せをそれぞれの特徴・使い方を的確に分析し、経験を生かして課題解決できる体制で、相反するデメリットを共通のメリットに替える姿勢で取り組みます。

### ●関係者の皆様をリードし、共に歩む姿勢を大切に、業務を推進

- これまで積み重ねられてきた本施設への市民の思いをしっかりと理解した上で、リーダーシップをもって関係者の皆様を牽引し業務に取り組みます。
- 様々な諸条件及び課題を大局的・多面的に捉え、相互理解と合意形成のために、「Face to Face」はもちろん、多様なコミュニケーションツールを駆使した対話を重視し、主体的で円滑かつ的確に業務を推進します。
- 検討においては、要望から多種にわたり導き出された解決案を整理して、わかりやすいプロセスで最適な計画にまとめ、提示します。
- 当社に蓄積された最新の類似施設の話題提供を行ない、市ご担当者や利用者との情報共有を行うことで、共通認識を高め議論を進めます。

●業務体制での配慮事項

### ●計画地を熟知する名古屋を拠点にした設計チームと全社のサポート体制

- 市内の施設設計経験者や中津川の気候や社会環境等、敷地を熟知する名古屋を拠点にした設計チームで取組み、女性や育児の視点から女性の設計スタッフを加えて、地域性や社会のニーズに対応した設計を行います。
- 中心市街地活性化の他、本事業は施設を設計するだけでなく様々な検討が必要になります。設計チームに、まちづくり、憩いの空間のためのインテリア、外構を彩るランドスケープ、光や音環境などのサポートチームを加え、全社の総合力を集めたチーム編成により多面的な視点で業務に対応します。
- 充実した全社サポートにより、コストの精査の他、BCP対応の複合施設最新実績に基づく防災知識や技術などを強力に支援し、多岐にわたり付加価値の向上を図りながら、建物の品質を高めます。

●業務手順への配慮事項

### ●期待される市民要望の的確な把握と計画への確実な反映

- 住民説明会などへの積極的な参加の他、市民のニーズを的確に捉え、市民目線でわかりやすい説明資料を作成します。

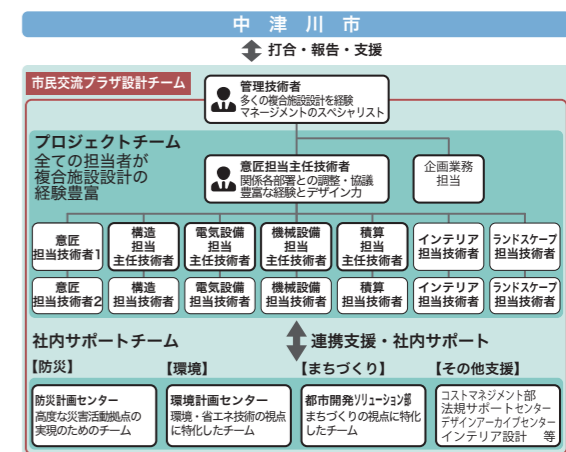


図 1-8 経験豊富な設計チームと全社的な協力体制



図 1-9 対話を重視した業務の取り組み

名古屋を拠点にし、中津川を熟知した設計チームが迅速に対応

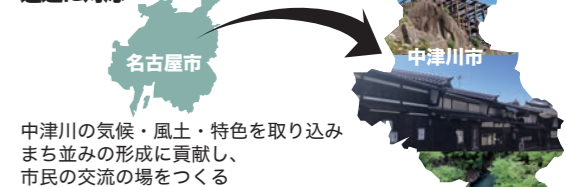


図 1-10 計画地を熟知する設計チームの特色